

感染症週報



小笠原での流行状況

第41週（10月13日から10月19日まで）

父島

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、COVID-19の報告がありました。
感染性胃腸炎の報告が6件ありました。

母島

特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第40週（10月6日～10月12日）

【警報・注意報】

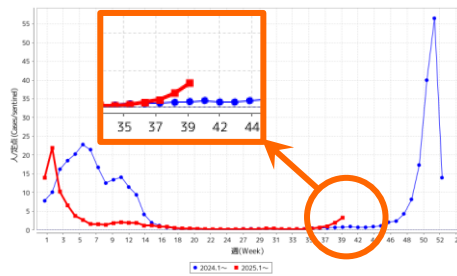
なし

【ピックアップ】

★増加しています

・インフルエンザ

（定点患者報告数 3.30）



★前週より増加

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

（定点患者報告数 2.01）

・百日咳

（累計報告数 6,261例）

・感染性胃腸炎

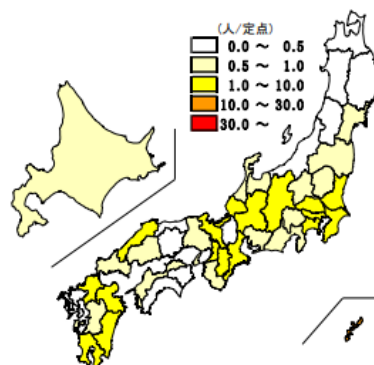
（定点患者報告数 4.47）

村内でも
出ています



今シーズンのインフルエンザは、例年より早く、9月下旬に**流行シーズンに突入**しました。現在、流行の中心はA型となっています。発熱・咳のほか、胃腸症状を伴う例もみられ、症状が多様化しているのが特徴です。特に15歳未満の感染者が多く、学校や幼稚園での集団感染リスクが高まっています。

インフルエンザで重症化しやすいのは、65歳以上の高齢者、乳幼児（特に6か月～2歳未満）、妊婦、基礎疾患がある人（喘息・心疾患・糖尿病・免疫抑制状態など）です。これらの人は肺炎や脳症などの合併症を起こしやすく、早期のワクチン接種と感染予防が重要です。



全国での2025 年第40 週の定点当たり報告数は1.56となっています。

都道府県別の定点当たり報告数では、沖縄県が「12.18人」と最も多く次いで東京都の「3.30人」、宮崎県で「2.89人」となっています。

全国における定点当たり患者報告数(第40週)

感染症メモ

出典、参考：厚生労働省
東京都感染症情報センター

インフルエンザ 予防・感染拡大防止のポイント



ワクチン接種は
早めに

（高齢者・基礎疾患のある方・学校